



# 琴湖\*のほとりに 暮らす人々 No.1

豊かな自然に囲まれた自給自足の暮らしと、コミュニティの絆のしっかりと息づいているまち。その魅力を明るくてあったかい琴海人(きんかいびと)を通して描くことをこころみるシリーズ。第一回は琴海シーカヤッククラブ会長の松島泰治(60)さん。



\* 昔大村湾は、「琴湖(キンコ)」もしくは「琴の海(コトノウミ)」と呼ばれていた。  
名づけの由来は、波の音が琴をつまびいているように聞こえたから、とも。湖のように静かなので京都の「琵琶」湖に対して、とも。長崎市の、西彼杵半島(ニシソノギハントウ)の、大村湾に面した土地が旧琴海町(キンカイチョウ)です。

【写真】島で炒飯をつくる松島さん,2012,11(撮影：平井杏奈)

November 30, 2012

Dear Elly

今は遠く離れてしまったけれど、かつては同じ教室で学んだ志を同じくする友へ。  
元気にしてる？私はやっと放浪生活を終え、琴湖のほとりでなんとかやっているよ。  
すごくステキな場所だから、手紙を書きたくなりました。  
きいてきいて。

### 海を歩くことができれば、世界は倍以上に広がる

琴海にはシーカヤッククラブが2つあって、そのひとつが琴海シーカヤッククラブ。よく晴れた日曜日、会長の松島さんにお誘いいただいて、カヤックに乗って海の散歩に出かけた。大村湾の奥の吉の浦は波もほとんどなく湖のよう。最初は思うように進めないが、10分も試行錯誤していると漕ぎ方がわかってくる。コツを教えてもらおうと船はきちんと走り出した。

左右に櫂を差し入れれば、ゆっくりとした速度で水の上を滑っていく。はじめに迎えてくれたのはヨーロッパのどこかのようなオーシャンパレスの建物。ゴルフ場のグリーンに青い水が映えている。紅葉の始まりかけた島と島にかかる橋の下をくぐれば、水面からカモメの群れが飛び立つ。牡蠣の養殖かごを横目に、カヤックに乗り水面を気の向くまま歩いてゆく。

船に乗る人たちは「船に乗る」とは言わず「海を歩く」と言うの。特にシーカヤックは海面との近さゆえに本当に海を歩いて渡っていくような感覚。カヤックさえあればどこへだって行けるような気がする。だからまるで新しく冒険する世界がもうひとつ現れ出たかのよう。

### 無人島でコーヒーを飲んで、自然の中で昼寝

コンクリートの埋め立てではなく、自然のままの複雑な海岸線に守られた琴海。地形のおかげで波が穏やかなことに加え、上陸できる無人島があちこちに点在している。誰もいない浜にカヤックを引き上げると、松島さんはイスと簡易テーブルを組み立て始めた。バーナーでフライパンを温め、バターを溶かして手際よくチャーハンを作ってくれる。青い空の下、やわらかい風に吹かれて、コーヒーをありがたくいただく。聴こえるのは鳥のさえずりとさざ波の音のみ。

シーカヤックの楽しみ方は十人十色。競技として速さを競う。旅としてどこまでも遠くへ漕いで行く。観光として佐世保市の九十九島のように地層や豊かな生態系観察を楽しむ、という人たちもいる。松島さんの場合は、カヤックを漕いで島に上陸し、自然の中でのんびり



するのが好きなのだそうです。開放感の中でときに昼寝をし、ときにキャンプをする。仕事のストレスがふっと消えていくのだとか。

## シーカヤックとの出会い

ハツラツと笑う松島さんは、もともと山男だったこともありアウトドアが大好き。高校を卒業後、寝袋を背負って徒歩で四国一周の旅をしたこともあるらしい。ある日カヤック好きの会社の同僚に誘われてついて行ったのがきっかけで、その日の帰り道その足でカヤックショップに船を買いに行くほどはまってしまった。今では奥さまと一緒に、外海(ソトメ)、野母崎(ノモザキ)、宇久(ウク)、小値賀(オジカ)etc. とあちこち漕ぎに行くようになった。

実は長崎県は日本で最も長い海岸線を持つ地域。潮の満ち引きによって一つが二つになったり、二つが一つになったりする小島。強い波風に洗われて、直線的に立ち上がる黒々とした崖。表情豊かなフィールドがもんのすごたくさんある。その中でも琴海は、無人島に気軽に行けることが気に入っているそう。ほぼいつも波が穏やかで、住まいからなんと30分。琴海全体が東向きのため、昇ってくる初日の出を仲間とともに見に行くこともあるのだとか。

琴海の海の魅力をもっと知ってもらいたい

これからやりたいことを聞いてみると「子ども自然教室」と返ってきた。自分の親が自分を自然に連れ出してたくさんのものを見せてくれたように、子どもたちに海に親しみ楽しむ機会を提供したい。また、クラブの活動を通して琴海の海の魅力発信をしていきたい、とも教えてくれた。道具を片付け再び吉の浦へ。こうして2時間強のショートトリップは終わり、海がちょっと身近になった。



JR 長崎駅から車で約40分。

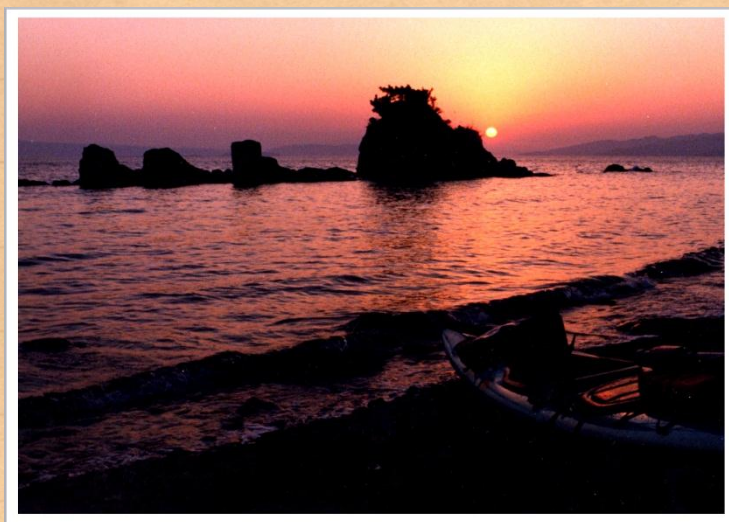
街から遠すぎず、スーパーだってコンビニだってあるけれど、自然とそれを生かし楽しむ暮らしもちゃーんと残っている。やっけん(だから\*琴海弁)、そのうち遊びにおいでよ。そんで一緒に無人島でコーヒーを飲もう。

p. s. とってもステキな写真をもらったから、同封するね。

*Lots of love*

*Anna*





【写真上】海面から飛び立つカモメの群れ, 2004, 9(撮影; 松島泰治)

【写真中】尾戸の朝焼け, 1998, 1(撮影; 松島泰治)

【写真下】脇崎の小島, 2004, 8(撮影; 松島泰治)

【琴海シーカヤッククラブ】

Tel:095 (884) 2426 (20時~22時が確実です)

年間会員費 2000円、会員は船使用料1回につき 100円/艇

ビジター料金 船使用料1回につき 500円/艇 (安全のために必ず会員と一緒にお願いします)